



のがわ

チャレンジする心

こうちよう こいずみ まさかず
校長 小泉 昌和

先日のニュースで、スピードスケートの高木美帆選手に、国民栄誉賞の授与を検討しているとお話がありました。スポーツ選手が国民栄誉賞を授与となれば、2023年に授与された車いすテニスの国枝選手以来となるそうです。

高木選手が国民栄誉賞授与の検討に挙げた理由としては、「長年にわたり、スピードスケート界の第一人者として世界の第一線で活躍してきた。また、国民に広く夢と感動を与えるとともに、社会に明るい希望と勇気をもたらした」ということだそうです。

高木選手は、5歳からスピードスケートをはじめ、15歳でオリンピックに出場、史上最年少での出場でした。高木選手のすごいところは、距離ごとの専門化が進む現代において、複数の種目に挑戦し、高いレベルでこなしてきた点にあると思います。一つのこと集中し、その力を極限まで高めるのはもちろんのこと、「この次は!」と更なる高みを目指す姿勢に対し、感服します。

一方の国枝選手は、車いすテニス男子シングルスにおいて、4大会全制覇とパラリンピック金メダルを達成、通算50勝を記録した絶対王者と呼ばれています。この先、誰も国枝選手にはかなわないのでは…、とさえ言われたそうです。

この2人に共通していることを考えてみました。どちらの選手も、とにかくやってみよう、何にでもチャレンジしてみようという気概をもって取り組んでいる点にあります。2人の選手は数々の名言を残していますが、中でも印象に残っている言葉があります。

高木選手『逃げずに一度は向き合ってみよう』

国枝選手『常にチャレンジを意識し、決断をし、行動してきた。これからもしていく』

我が野川小学校の学校経営方針の柱にも「主体的に学ぶ意欲の育成」があります。また、第3次かわさき教育プランの考え方にも「一歩踏み出す」とあります。人にはそれぞれ得意不得意があります。得意な面をさらによりよくしていくこと、そして、苦手な面に対しては目を背けるのではなく、しっかりと向き合い、やってみようと思っしてほしいと願っています。

そのために、我々大人がどのように支援していかなければならないのか、今までやってきた支援の他に何かできることはないか、常にチャレンジ精神をもって取り組んでいきたいと思えます。

朝の正門より…

朝の正門であいさつをかわしていますが、子供たちの様子に変化が…。

4月当初は、高学年の子供たちは、目を見てあいさつをする子供が多かったのですが、最近では、低中学年の子供たちも目を見てあいさつをするようになったなあと感じています。中には、まっ直まってお辞儀をしながらあいさつをする子供もいます。また1つ喜びが増えました。